

## J. W. ランバス墓前礼拝 ～玄孫ディヴィッド・シェレルツさんを迎えて～

学院史編纂室 池田裕子



アメリカ・カリフォルニア州より観光旅行で来日されたディヴィッド・シェレルツさん(関西学院創立者 W. R. ランバスの妹の曾孫)ご夫妻とそのご友人ダグラス・ヴォーガンさんご夫妻が5月5日朝、神戸に到着されました。神戸滞在中(2日間に J. W. ランバスの墓参りをしたいとお聞きしていましたので、神戸栄光教会の野田和人牧師(下はディヴィッドさんご夫妻を神戸栄光教会に迎えて)に墓前礼拝をお願いしました。ランバス一家が来日し、南メソヂスト監督教会が日本伝道を開始したのは今からちょうど130年前の1886年のことです。J. W. ランバスは1892年4月28日に神戸で亡くなり、東遊園地の東にあった小野浜墓地に埋葬されました。現在、この墓地は再度山に移設され、神戸市立外国人墓地とな

っています。野田牧師は、神戸栄光教会創立130年記念行事の第一弾として、ディヴィッドさん来日に合わせ、同教会第2代牧師を務めた J. W. ランバスの墓前礼拝を企画してくださいました。

朝10時前、新神戸駅近くのホテルにお迎えに上がった時、一目でディヴィッドさんだとわかりました。と言うのは、2013年のランバス・デイ(ミシシッピー州パールリバー・チャーチ)でお目にかかったお兄様のビルさんにそっくりだったからです。「私にとって、今日は忘れられない日になると思います」。初対面の私にディヴィッドさんはおっしゃいました。

5人で神戸市役所、東遊園地、旧居留地47番館跡、山2番館跡をめぐり、昼前に神戸栄光教会に到着しました。大学博物館の神田孝一総合主管、林智義事務長もここで合流しました。野田牧師が教会内を案内し、ランバス父子の遺品を見せてくださいました。墓地に出発する前、「こどもの日」にちなみ粽を添えたお弁当を若林一義牧師や教会員の津久井幸子さん、得能尚子さん(1980年にディヴィッドさんの叔母上たちが来日された時、墓前礼拝に参列されたそうです)と共にいただきました。

教会から神戸市立外国人墓地まで、マイクロバス2台、タクシー1台、乗用車数台を連ねて向かいました。墓前礼拝は午後2時からです。お墓の周りに約60名が集まりました。最初にディヴィッドさんが英語で挨拶されました。「こどもの日」ということで、6代にわたるランバス・ファミリーの女性が世界の様々な場所で子どもの教育に関わってきたことを紹介され、最後に自作の俳句を披露されました。野田牧師がこの日のために選ばれた聖書の言葉は「使徒言行録」1章3-11節、説教のタイトルは「地の果てに至るまで、証人」でした。

礼拝終了後、教会員が次々にディヴィッドさんに声をかけられました。「私の祖父はランバス先生から受洗しました」との言葉に、ディヴィッドさんは感無量の面持ちでした。J. W. ランバスを創立者とするパルモア学院の院長ご夫妻もいらっしゃいました。そして、参列者全員にディヴィッドさんがアメリカからお持ちになったお土産が配られました。

夜は、神田、林、私の3人で旧居留地に今も残る唯一の洋館15番館(写真左)にご案内しました。それは、ランバス一家の来日時、アメリカ領事館だった建物で、今はレストランになっています。感動的な1日を共にしたせいかわ、夜9時近くまで話は尽きませんでした(左奥がディヴィッドさんご夫妻)。



夜は、神田、林、私の3人で旧居留地に今も残る唯一の洋館15番館(写真左)にご案内しました。それは、ランバス一家の来日時、アメリカ領事館だった建物で、今はレストランになっています。感動的な1日を共にしたせいかわ、夜9時近くまで話は尽きませんでした(左奥がディヴィッドさんご夫妻)。

『学院史編纂室便り』第43号(2016年6月1日)

関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ケ原 1-1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>